

団体名 ワンフォーオール (宇部市)

代表者名	河野 邦彦	団体の目的
構成員数	10人	県民及び一般市民の方々に対し、スポーツと観光の振興及び文化・国際交流を通じて地域や社会への貢献に関する事業を行い、住み良い地域環境づくり、地域福祉への理解促進に寄与する
設立	2013年2月	
問い合わせ先	Nagai.isao@gmail.com	

事業名 “Mounta-In-Bound”中山間地域で国際交流
事業の目的

- 市内の中山間地域「吉部地区」をモデルに国際交流活動を行い、地域住民、若者（大学、高校生）と在留外国人（留学生）の連携を推進し、地域の活性化とともに宇部市の多文化共生社会の醸成、国際学園都市化に寄与する
- 国際交流の若手リーダーの育成

事業の内容
○ 国際交流オフライン活動

開催日	① 7月17日 ② 12月10日 ③ 3月4日 ④ 3月13日	開催場所	①江汐公園 ②吉部地区古民家 ③宇部市中村古民家 ④二又瀬ふれあいセンター	参加者	①50人 ②30人 ③5人 ④40人
内容	①夏祭り（そうめん流しやスイカ割り等）②餅つき大会 ③ひな祭り（和服の着付け） ④ベトナム料理調理食事会				

○ 国際交流オンライン活動

開催日	① 7月2日 ② 毎月2回 ③ 週1回	開催場所	事務所からwebをつないで実施	参加者	① 200人 ② 延べ 400人 ③ 延べ1,200人
内容	①インドネシア中高大学校（Sakurakata州）との文化交流 ②文化交流 ③日本語講習会				

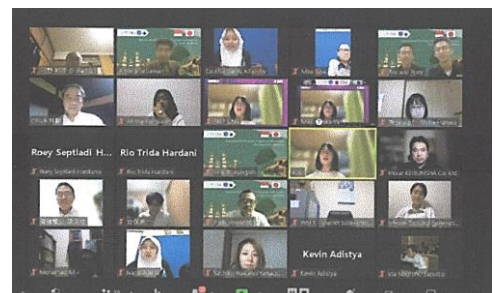
事業の成果

- 市内高校・大学生を対象に国際交流若手リーダー育成システム構築の基礎固めができた
- 留学生を含む外国人に対する日本文化の紹介体制が整った
- 中山間地域での若者・外国人との交流が活発になり、地域活性化に寄与できた

活動の写真


◀夏祭りでスイカ割に挑戦

▶ベトナム料理体験



▲オンライン文化交流

団体名 特定非営利活動法人 市民プロデュース (山口市)

代表者名	平田 隆之	団体の目的
構成員数	10人	地域住民の自主性・主体性の発揮と多様な主体の協働の推進のため、対話の場づくりを軸に仕組みや事業提案、運営、コーディネート等を実施
設立	2007年6月	
問い合わせ先	https://www.nposp.org/	

事業名 地域と人と暮らしの「育ち」をみんなで一緒に考える～映画上映 & 話し合いの場づくり事業

事業の目的

○映画鑑賞とその内容について対話する場を作ることで、自ら関心のあるテーマについて主体的に考え、行動を起こすきっかけづくりを支援する

事業の内容

○みる と かたるの会、むすびの会の開催

開催日	①11月 5日(日) ②11月12日(日) ③11月17日(日) ④12月 8日(金)	開催場所	①佐々並地区交流促進施設 ②小郡地域交流センター ③Waku2BASE ④CS.赤れんが	参加者	延べ 58人
内容	○認定NPO法人もりのこえんが山口市上天花町を拠点に運営している、森のようちえん「もりのこえん」を題材とした記録映画を上映し、観賞した人同士の対話の場づくりを行った ○映画を見ることで生まれる気づきや思いを、それぞれの視点で語り合った				

事業の成果

○話し合いを重ねることで、参加者同士が共通の認識、つながりを持つことができ、それぞれの活動を前進させたり新しい試みを始めたりするきっかけを作ることができた

活動現場レポート 「みるとかたる むすびの会」
 日時：12月8日(金) 13:00～／場所：クリエイティブスペース赤れんが(山口市)

- ◆この日は、子育て支援の活動団体、子育て中の母親など約30名が参加して「みるとかたるの会」のまとめ企画「むすびの会」が開催されました。
- ◆まず、映画鑑賞後のざっくばらんな感想を出し合ったあと、模造紙に感想や疑問などを書いて貼り、それを見ながらダイアログセッション(対話形式の話し合い)が行われました。
- ◆映画の中で心を動かされたことを話し合い、自分自身が何ができるのかを振り返ることができ、参加者同士が緩やかにつながり、それぞれの活動を前進させたり、新しい試みを始めたりするきっかけになった様子が伺えました。
- ◆それぞれの立場で意見を出し合い、対話を繰り返すことで、よりよい社会・地域づくりにつながることを共通認識できました。

「対話する」ことの重要性を認識 ▶



団体名 萩元気食の会 (萩市)

代表者名	岡野 芳子	団体の目的
構成員数	33人	
設 立	2009年11月	
問い合わせ先	萩市商工観光部観光課 (☎0838-25-3139)	

- ・ 萩の地域性を活かして、食を核とした魅力的なまちづくりに取り組み、市民の健康づくりを推進するとともに、観光振興に寄与する

事業名 萩ふるさとごはんレシピ次世代継承事業

事業の目的

- 萩市の郷土料理を後世に伝える
- 郷土料理本を次世代向けに刷新し、活用することにより、郷土料理についてより多くの人に関心を持ってもらうきっかけを提供する

事業の内容

- 萩の郷土料理本「萩ふるさとごはんレシピブック」の編集・発行
仕様:A5サイズ/56ページ・フルカラー 印刷部数:300部
内容:萩の郷土料理のレシピを掲載(ごはんもの、和え物、おやつ、行事食、歴史食等全24レシピ)
配布先:萩市内・近辺の学校や図書館、公共施設、食育関係者等
- レシピブックを活用した郷土料理教室の開催

開催日	1月27日(土)	開催場所	萩市民館	参加者	22人
内 容	・ 若年層や幼児から小学生までの子どもがいるファミリー層を対象に、郷土料理(ウニめし、こくしょう煮、すりながし汁等)をレシピを見ながら一緒に調理して味わった				

- イベントでのパネル展示とレシピカードの配布
イラストレシピのパネル展示、手のひらサイズのレシピカードの配布、郷土料理メニューの試食

実施日	① 7月27日(木) ② 9月24日(日) ③ 10月21日(土)	実施場所	① 結からはじめるSDGs×市民活動2023 ② 萩ジオパークフェスティバル ③ 結まつり
-----	---	------	---

事業の成果

- 若年層やファミリー層が萩の郷土料理に触れる機会を増やすことができた
- 郷土料理の伝承をわかりやすいレシピやクッキングイベントを通じて行うことができた
- 活動を通じてターゲット世代以外にも「萩の郷土料理」を大切な食文化として再認識してもらえた

活動の写真



▲ 郷土料理に挑戦



▲ 啓発展示ブースの様子



▲ レシピブック

団体名 室積まちぐるみ協議会 (光市)

代表者名	松本 隆	団体の目的
構成員数	4,000人	室積地区内における各自治会及び各種団体との連携を密にし、共通の課題解決を図り、安全・安心とぬくもりのある室積の構築を目指し、自主的・主体的に地域活動を行う
設立	2016年3月	
問い合わせ先	室積コミュニティセンター (☎0833-78-0267)	

事業名 みたらいアートプロジェクト

事業の目的

- 子どもたちや地域住民が一体となって地域をよりよくしていくためのプロジェクトに取り組み、それにより室積地区の未来を考える人づくりや地域の結びつきの強化につなげる
- 室積地区の防潮堤をカラフルにペインティングすることで、海岸エリアを魅力的な「名勝」としてにぎわう地域とする

事業の内容

○ 防潮堤ペインティング

開催日	11月5日(日)	開催場所	光市室積4丁目防潮堤	参加者	延べ400人
内容	地元の小中学校生に「希望のまち・住みたいまち室積」をテーマにデザインを公募し、有志で集まった地域住民とともに、防潮堤の壁面に1.7m×2.47mの絵を2枚ペイントした				

事業の成果

- デザイン決定のプロセスで、自分たちの地域の誇りや魅力について見つめなおす機会となった
- 小中学生、保護者、学校関係者、近隣住民やスタッフが協力して進めることで絆を拡げることができた
- 防潮堤がカラフルになっていくことによって、地域の魅力を創出、発信することができた

活動現場レポート

防潮堤ペインティング

日時：11月5日(日) 9:00～／場所：室積海岸防潮堤(光市)

- ◆ 当会では、昨年度から、地域をより良くしていくための活動の第一歩として、室積地区の海岸エリアが日本一の海岸エリアになるよう、地域の子どもたちや住民の参加のもと、劣化で傷んだ防潮堤の表面を新しくリニューアルする防潮堤ペインティングを実施されています。
- ◆ 今回は2年目となる事業で、朝9時から地元の小中学生を中心に多くの方が集まりました。
- ◆ 防潮堤のデザインの題材は、室積小が創立150周年を迎えることから、小学生が描いた運動会の様子と中学生が描いた「フィッシングパークとだるま夕日」で、参加者は、皆、協力しながら楽しそうにペインティングに参加されており、ほぼ原画にそった立派な作品が出来上がりました。
- ◆ 今回のイベントを通じて地域のつながりの大切さや地元への愛着も一層感じる事ができたのではないのでしょうか。



▲ それぞれが手掛けたペイントを前に

団体名 青海島共和国 (長門市)

代表者名	濱野 達男	団体の目的
構成員数	31人	旧青海島小学校の跡地を拠点に、地域住民が一体となり地元の歴史、文化を理解し住みよい道づくりをめざすとともに、都市との交流を通して地域資源を活用し元気な地域おこしに取り組む
設立	2008年4月	
問い合わせ先	kyowakoku@hotmail.co.jp	

**事業名 幻の青海島縦走線 40年振り復活改修記念
～絶景と文化歴史探訪・・・青海島周回ウォーク～**
事業の目的

- 荒廃していた青海島縦走線の遊歩道が40年ぶりに改修されたことを受けて、日本の“しま山100選”でもある高山を中心に北長門国定公園の絶景の観賞とコロナ後の新たな魅力の発見と活用を図り、青海島の交流、関係人口の増加と活性化を図る

事業の内容

- 青海島縦走線歩道ウォークイベントの開催

開催日	10月15日(日)	開催場所	高山オートキャンプ場～寺山～清福寺	参加者	15人
内容	- 名称:「絶景と歴史文化探訪ウォーク」幻の青海島縦走線歩道をふく太郎・ふく子さんと一緒に歩こう! - 日本の”しま山100選”でもある高山を中心に、北長門国定公園の絶景の観賞と青海島の歴史や文化の案内を含めながらウォーキングした 【コース】 青海島共和国～波の橋立(青海湖)～高山オートキャンプ場～高山登山～寺山～大日比(夏みかん原樹)～王子山～青海島共和国(約15km)				

事業の成果

- 活用されていなかった縦走線歩道復活による地域の魅力と情報発信ができ、今後の維持管理への地元の理解と協力の促進を図ることができた
- 案内看板や写真スポット、ベンチの設置ができたことから、次回からは、チャレンジコースやファミリーコースなどを検討し、中断している青海島マラソン大会の復活や新たなトレイル大会への発展につなげたい

活動の写真


参加者向けのエイドも充実 ▶



◀ みなさん晴れやかな笑顔



団体名 琴石グリーン村 (柳井市)

代表者名	難波 勝文	団体の目的
構成員数	35人	琴石山麓の動植物の生態に関する調査研究・保護、登山道・林道の保全整備、里山の再生、耕作放棄地を活用しての営農、歴史や民俗に関する調査研究などの活動を通じて、豊かなコミュニティづくりを目指し地域の活性化に寄与する
設立	2017年4月	
問い合わせ先	090-3889-8797 (事務局:難波)	

事業名 柳井市のシンボル「琴石山」を核にした地域活性化事業

事業の目的

- 琴石山山頂部の「琴石グリーンパーク」を拡張し、山腹一帯を野外活動が楽しめるテーマパークとして整備し地域振興を図る
- 琴石山の見どころ、遊びどころをPRし、交流する機会を作り、加入者・協力者を増やしていく

事業の内容

- 琴石山麓の整備の拠点となる正福寺の森公園の整備(16回:延べ43人参加)
- 伝説の「隠れ屋敷跡地」の調査と整備(7回:延べ13人参加)
- 琴石山麓の見どころ、遊びどころを繋ぐトレッキングコースの整備(6回:延べ12人参加)
- 築9年目のツリーハウス「ハックルの家」の修繕(4回:延べ9人参加)
- 交流&学習会の開催

開催日	①10月 7日(土) ②11月11日(土) ③ 2月11日(日)	開催場所	①・③正福寺の森公園 ②春日神社	参加者	① 40人 ②200人 ③120人
内容	①「きのこ狩りと琴石山麓の自然に親しむ集い」～里山の自然を散策しながらきのこの採集と森林環境学習会を実施 ②「石見神楽を楽しむ会」～地元高校の吹奏楽演奏や地域の方の活動発表等も交え、神話の世界を表現した神楽を地域住民に楽しんでもいただく機会とした ③「開村記念の会」～登山客へ甘酒やお菓子等の接待とともに、当会の活動の紹介や作成したパンフレット(琴石山案内図)等を配布した				

事業の成果

- 今年度の活動を通じて、見どころスポットやルートが整備できたことで、琴石山などを散策する人が増え、地域振興に寄与できた
- 地域の賑わいを演出することができ、ふるさとを愛し、豊かな自然を守る良い機会となった

活動現場レポート 石見神楽を楽しむ会
日時: 11月11日(土) 13:30～/会場: 春日神社(柳井市)

- ◆ この日は、地域住民同士の交流をメインとした「石見神楽を楽しむ会」が開催されました。
「大江山」「恵比寿」「八岐大蛇」の3つの演目が披露され、子どもから大人まで迫力ある演目に見入っていました。柳井学園高校吹奏楽部のジャズ演奏やマジックの披露もあって、満員のお客さんは大いに楽しんでいた様子でした。
- ◆ また、会では高校生とのつながりができつつあるようで、柳井学園高校の生徒たちがボランティアとして多く参加されていました。今後の活動への協力が期待されます。



▲ 神楽の上演

団体名 柳井桜土手を守る会 (柳井市)

代表者名	大野 重則	団体の目的
構成員数	20人	- 柳井桜土手の環境美化活動を行い、観光のまち柳井市の新名所を創出する - 地域住民とのふれあいや地域活性化を図るとともに、柳井市のまちづくり、文化振興等に寄与する
設立	2011年6月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 柳井「桜土手」のにぎわい創出事業

事業の目的

○柳井市の「桜土手」を観光の新名所として掘り起こして、住民のふれあいや交流の場とし、地域活性化やまちづくり、文化振興に寄与する

事業の内容

- 桜土手周辺の環境美化活動
参加者：環境美化団体、さくら管理団体、地域住民、青少年団体／年間6回実施
内容：草刈り、除草やゴミ・空き缶の収集
- 地域ふれあい交流や観光宣伝によるまちづくり活動

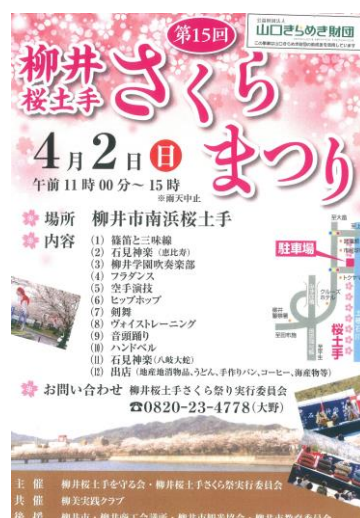
開催日	① 4月 2日(日) ② 10月22日(日) ③ 11月26日(日)	開催場所	大歳神社跡地 (柳井市南浜桜土手)	参加者	約800人
内容	①柳井桜土手さくらまつりの開催～神楽や篠笛、三味線、ダンス、舞踊、吹奏楽等地域住民の日頃の活動発表の場ともなった ②独身男女の出会いの場づくりバーベキュー ③大歳神社跡地のお披露目会～地域の歴史についての講演や活動発表				

事業の成果

- 柳井の桜土手でのさくらまつりや大歳神社跡地の資料の掘り起こしをすることで柳井市の観光や桜の新名所として地域住民や観光客との交流の場ができ、市の観光や地域交流まちづくりに貢献することができた
- 歴史、観光団体とのネットワーク化により、柳井市の観光に対する意識を高めながら、やない市民活動センター登録団体との協力連携ができた

活動の写真

▼ 清掃活動の参加者



◀ さくらまつりの開催チラシ
地元新聞にも掲載されました



団体名 柳井市白壁の町並みを守る会 (柳井市)

代表者名	木阪 泰之	団体の目的
構成員数	50人	郷土の町並み保存とより良い生活環境づくりにより、柳井市の発展を図る
設立	1979年2月	
問い合わせ先	qqk67uqd@opal.ocn.ne.jp	

事業名 柳井市白壁の町並み 魅力「再」発見プロジェクト

事業の目的

- 市民自身が白壁の町並みのルーツや成り立ちを「再」発見することで、柳井市独自の歴史・伝統文化を「再」認識し、愛し育てる意識を育て、町並みの活気を再生するとともに、対外的に柳井市の白壁の町並みの魅力をPRする

事業の内容

- 柳井金魚ちょうちん&弘前金魚ねぶた展示装飾

開催日	7月20日～8月31日	開催場所	町並み資料館、やない西藏、しらかべ学友館
内容	柳井の金魚ちょうちんとそのルーツである弘前金魚ねぶたを展示し装飾し、チラシ等を配布し、金魚ちょうちんのルーツや弘前との交流をPR		

- 弘前金魚ねぶたづくり体験

開催日	7月23日、 8月8日・11日	開催場所	柳井市文化福祉会館2F 大会議室	参加者	延べ56人
内容	- 金魚ねぶたの制作体験(弘前市の職人からオンラインで指導)を実施 - 制作物は持ち帰ってもらい、各家庭で装飾していただいた				

- 柳井オリジナルかるた大会の開催

開催日	10月28日、11月 23日、3月17日	開催場所	やないろ2F イベントスペース	参加者	延べ57人
内容	当会で製作した「柳井オリジナルかるた」を使ってかるた大会を開催				

事業の成果

- 観光客や体験者に柳井市と弘前市のつながりや、白壁の町並みの成り立ち、柳井市の魅力を知ってもらうきっかけとなった
- 柳井オリジナルかるたの原案者やそれで遊ぶ子どもたちにとっては、思い出や誇り、自信につながり、歴史や伝統を継承する心を育てることにもつながった

活動の写真

▼ 青森とZoomで
つながりながらねぶたを製作

▼ オリジナルかるたを使って



団体名 山口ジビエサミット (美祢市)

代表者名	仲村 真哉	団体の目的
構成員数	20人	ジビエに関する活動を行うことにより、猪や鹿といった野生鳥獣を活用し、一般への認知を広める
設立	2022年3月	
問い合わせ先	☎090-6434-2055 (仲村)	

事業名 山口ジビエサミット2023

事業の目的

- ジビエ加工施設や飲食店、狩猟者といった関係者同士の相互理解を深め、つながりをつくる
- ジビエ肉の加工について一般への認知を広めるため、イベントを開催する

事業の内容

- 拠点整備
美祢市美東町真名滝に設置している、ジビエの保管倉庫が豪雨により破損したため、屋根、床、壁の補修、補強、洗浄などを行った
- ジビエ猟師のスキルアップ研修会、情報交換会の実施

開催日	5月27日、6月7日、 12月2日	開催場所	古民家ゲストハウス ひまわり	参加者	延べ40人
内容	各猟師の事例紹介や、持ち寄りのジビエ料理新メニューの試食会等				

○山口ジビエサミット2023の開催

開催日	5月21日	開催場所	秋吉台家族旅行村	参加者	460人
内容	ジビエを使った料理を提供するキッチンカーや屋台、猟師道具の展示や猟の体験、交流会等				

事業の成果

- 定期的に研修や情報交換会を行ったことで、ジビエ猟師や関係者のスキルアップ、連携強化につながった
- ジビエサミットには、取材やジビエ猟に取り組みたい方からの連絡もあり、大きな反響があった
- 初めてジビエ料理を食べる方もおられ、ジビエに対する認知や啓蒙を効果的に行うことができた
- 新規取引先からの問い合わせもあり、会員の加工販売所との取引も始まった
- ジビエに関心のない方へのアピール不足を感じたことから、今後も他のイベントへの出店する等しながら、ジビエの認知・啓蒙を行っていききたい

活動の写真

▼ 研修会・情報交換会の様子



団体名

稲光「笹踊り」保存会 (下関市)

代表者名	竹永 寛	団体の目的
構成員数	23人	地域伝承活動を通して地域内住民の連携強化を図り、児童の健全育成と明るく健康な地域づくりに寄与する
設立	2001年10月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 伝承活動継続のための衣装購入

事業の目的

- 稲光地域に350年続く「笹踊り」を今後も保存継承の一策として、男の子だけが参加していた踊り手に女の子も加えて人員を確保するため、不足する衣装を購入する

事業の内容

- 子どもたちや親の意見を取り入れながら衣装の選択をすすめ、7着の衣装を購入
- その後、笹踊りの起こりや歴史ある行事を地域で保存継承する重要性を伝えながら、小学校の体育館等で笹踊りの練習を進めた
- 11月3日(日)の豊田神社の秋季例大祭に笹踊りを披露

事業の成果

- 児童数の減少で継続開催を危惧していた伝承活動「笹踊り」を女兒用の衣装等を揃えることで女兒の参加要請が比較的容易となり、踊り手の確保につながった
- 質素な踊りではあるが、華やかさも追加されたことで、踊りを見守った地域住民から称賛された
- 児童数の減少、女兒衣装の不足、楽隊の高齢化等様々な問題はあが、地域の協力を仰ぎながら伝統ある郷土文化をしっかりと引き継いでいきたい

活動現場レポート

秋季例大祭での笹踊り披露

日時：11月3日(日) 15:00～／場所：豊田神社(下関市)

- ◆ この日は毎年恒例の豊田神社「秋季例祭」が行われ、豊田下小学校の児童11人が神前で笹踊りを奉納されました。この日のために事前に保存会メンバーと何回か練習をされており、その成果を披露する場でもあります。会場には地域の方約200人が集まり、踊りの奉納を見守りました。
- ◆ 10月末から豊田下小学校でインフルエンザが流行し、学校閉鎖等で十分な練習ができなかったとのことですが、そのようなことは感じさせない堂々とした踊りを披露されていました。新しい衣装に身を包んだ子どもたちが、楽隊のお囃子に合わせて慎重に歩みを進めている姿がとても微笑ましかったです。
- ◆ 練習には保護者も見学に来られており、地域の幅広い年代層の交流にもつながったようです。新規衣装の購入を契機に、これから新たな協力者が地域の中から生まれてくることを期待したいです。



▲ 奉納の様子



▲ 新衣装を着た子どもたちと保存会のみなさん

団体名 北高夢ロード実行委員会 (下関市)

代表者名	波多野 宏之	団体の目的
構成員数	57人	山口県立豊北・下関北高校の通学・学習支援、学生や地域住民が文化・豊北の環境・自然に関する学習機会の提供を行い、まちづくりに寄与する
設立	2013年8月	
問い合わせ先	http://yumeroad.org/	

事業名 「夢ロード」の10年と今後：展示会・記録刊行・シンポジウムの開催

事業の目的

○ 本会の10年のあゆみを振り返り、他団体にも学ぶことにより、会の名称、活動内容、施行体制などを見直して、広く地域にとって実効ある＜文化の仲介者＞となる契機とする

事業の内容

○ ギャラリー展示

開催日	① 8月12日 ② 11月 7日～12月3日	開催場所	① 滝部公民館 ② ギャラリー夢ロード	参加者	① 7人 ② 145人
内容	①「通学路の記憶・交歓会：かつてこんなお店があった」 ②「『夢ロード』10年の歩みと通学路の記憶」展～会期中、「ワークショップ＜ドールハウスをつくろう！＞」「音楽とお話のタベ（4回）」を開催				

○ 10周年の集い開催

開催日	11月11日（土）	開催場所	滝部公民館	参加者	66人
内容	シンポジウム「アートと市民をつなぐ：まちづくりの実践」 ディスカッション、Mono-sax（下関のサクソフォン集団）によるサクソフォン演奏等				

○ 「夢ロード10年のあゆみ」の発行、配布～2月20日発行、配布（A4版、89ページ、200部）

事業の成果

- 関係者の思いや、活動記録をまとめた「あゆみ」を刊行配布することで、会の今後の方向性を提案することができた
- 写真の収集や聞き取り調査の過程や展示会来場者との対話から、地域住民及び地域の資料館との交流が深まった
- シンポジウムでの交流をきっかけに、他団体との新たな相互協力の取組が始まった

活動現場レポート 10周年の集い
日時：11月11日（土）12：00～／ギャラリー夢ロード・滝部公民館（下関市）

- ◆ この日は、ギャラリー夢ロードで開催中の「夢ロードの10年と通学路の記憶展」と公民館で行われた10周年の集いを見学しました。
- ◆ ギャラリー夢ロードでの展示会では、会の10年間の活動を写真や資料で振り返るとともに、昭和30年代の商店の様子を再現した模型図などが展示しており、会の活動や地域の歴史をよく理解することができた内容となっていました。
- ◆ シンポジウムでは、「アートと市民をつなぐ：まちづくりの実践」がテーマで、皆さん真剣にお話を聴かれており、その後のディスカッションでは、積極的に質問がなされるなど、大変有益な内容となっていました。



▲シンポジウムの様子

団体名 夾竹桃の会 (下関市)

代表者名	金子 達昭	団体の目的 ・ 平和の大切さを多くの市民に届けるとともに、市民参加の劇公演を創り上げることで、地域の演劇文化を底上げする
構成員数	7人	
設立	2021年4月	
問い合わせ先	kyotiku902@gmail.com	

事業名 市民参加による朗読劇「少年口伝隊一九四五」の上演

事業の目的

- 広島に投下された原爆の悲劇を描いた朗読劇を開催することで、核兵器の恐怖、戦争の悲劇と支えあうことの大切さを知ってもらう契機とする
- 市民が演者として参加することで下関の演劇文化を盛り上げる

事業の内容

- はじめての市民参加朗読劇「少年口伝隊一九四五」の上演

開催日	9月2日(土) 14:00~ / 18:00~	開催場所	下関市民館中ホール	参加者	460人
内容	・ 広島に投下された原爆の悲劇を描いた、井上ひさし作「少年口伝隊一九四五」を朗読劇にして上演 ・ 演者はオーディションで募集し、下関市立大学生も参加。趣旨に賛同する下関のアーティスト、文化団体等も出演 ・ 戦争記憶の継承を目的とした内容とし、被爆体験者の講演会も併せて実施				

事業の成果

- 募集の結果、一般市民から男女各9名の参加があり、市民の持つ演劇熱の掘り起こしになった
- 当日の2公演で460人の観客が来場し、被爆体験者の講演やダンス、合唱などの団体の協力もあって演目に幅ができ、平和の尊さを伝える目的を効果的に達成することができた

活動現場レポート

市民参加朗読劇「少年口伝隊一九四五」公演
日時：9月2日(土) 14:00~ / 場所：下関市民館中ホール (下関市)

- ◆ この日は、当会だけの単独ではなく、賛助出演として下関少年少女合唱隊、女声合唱クール・ソレイユによる平和の歌の合唱や、フラダンスチーム「manaフラ」による平和への祈りと鎮魂のフラダンス、語り部(前田彰子さん、早川南圖子さん)による広島での被爆体験の講話を公演の前後に挟み、朗読劇の雰囲気により盛り上がり「戦争の悲惨さと平和の尊さ」を考える構成となっていました。
- ◆ キャストは市民に向けて公募されたとのことですが、真に迫った素晴らしい演技で、終盤には涙する観客もおられました。登場人物の心情に沿いながら、改めて平和の尊さを実感できた一時となりました。
- ◆ 今後も様々な団体などと連携・協力して活動の輪を拡げ、下関市の市民文化を盛り上げていっていただきたいです。



▲ 地元の大学生も参加して

団体名 周防千鳥太鼓保存会 (山口市)

代表者名	高津 喜道	団体の目的 ・ 町の活性化を目指して、周防千鳥太鼓の保存と継承を図り、広く郷土文化の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を図る
構成員数	25人	
設立	1993年6月	
問い合わせ先	https://www.instagram.com/chidoritaik025/	

事業名 周防千鳥太鼓保存会 30周年記念公演

事業の目的

- 地域の活性化、地域文化財の保存はもとより、県内太鼓団体の参加を得て行うことで、県内和太鼓団体との交流と和太鼓文化の継承を目的とし、地域と和太鼓文化を盛り上げる

事業の内容

- 「周防千鳥太鼓保存会 30周年メモリアルフェスタ」の開催

開催日	11月19日(日)	開催場所	阿知須小学校体育館	参加者	200人
内容	・ 会設立30周年を記念して、メモリアルフェスタを開催 ・ 県内で活躍している様々な和太鼓団体との連携も図った 共演団体:カルスト草炎太鼓、竜王太鼓保存会、ふしの岩戸太鼓保存会、秋穂太鼓、賀宝燦翔隊、邦友会				

事業の成果

- 地域の活性化、和太鼓文化の周知・普及、県内和太鼓団体との密接な交流ができた
○ ワークショップで地域の老若男女、外国人などに和太鼓に触れてもらい、三世代交流、異文化交流も行うことができた
○ 出演していただいた県内和太鼓団体とネットワークが深まったことから、更に交流を深め、共に共演を繰り返しながら和太鼓文化の継承、地域を盛り上げていきたい

活動現場レポート 周防千鳥太鼓保存会 30周年メモリアルフェスタ
日時：11月19日（日）13：30～／場所：阿知須小学校体育館（山口市）

- ◆ この日は、当会が今年で設立30周年を迎えることを記念したメモリアルな和太鼓公演が行われました。
- ◆ 県内の6団体との共演で次々と演奏される演目に観客は魅了され特に、最終合同演奏の「威吹」は秀逸で、皆、その迫力に圧倒されていました。
- ◆ 演奏の合間に団体紹介やインタビューがあって、団体の様子がよく伝わり、インタビューで高校生が太鼓を始めたきっかけを「カッコいいから」と答えたことが印象深かったです。
- ◆ インタビューや観客層などから、太鼓は幅広い年齢層に受け入れられていることが分かり、各地に太鼓団体が存在する意義が理解できた気がしました。

迫力ある演奏 ▶



団体名 おはぎ OHaGi (萩市)

代表者名	藤原 昌隆	団体の目的
構成員数	12人	
設立	2020年7月	
問い合わせ先	ohagi.running@gmail.com	

- ・ 陸上競技・ランニングを通じて様々な人との交流や会員相互の親睦を図り、自己能力の向上やランニングノウハウの提供、サポートをする

事業名 陸上競技（ランニング）進行・部活動の地域移行サポート事業

事業の目的

- 中学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、安心・安全で、より良いトレーニング方法を提供できる指導者の育成を目指す
- トップアスリートによる陸上教室で様々なノウハウを学び、交流を通して陸上競技への関心や競技力向上を図る

事業の内容

- 青山学院大学陸上競技部、アスリートキャリアセンターによる指導者研修会

開催日	5月27日(土)・28日(日)	開催場所	至誠館大学	参加者	17人
内容	・ 青山学院大学のコーチやトレーナーによる研修会 ・ 部活動の地域移行のために必要な理念、行動指針、ウォーミングアップの必要性やストレッチを実践する中で学んだ				

○陸上教室

開催日	①12月17日(日) ② 1月14日(日)	開催場所	①萩ウェルネスパーク萩武道館 ②萩市駅伝大会会場	参加者	60人
内容	①トップアスリートを招聘し、トレーニング方法、レースへの心構えや準備等を生徒や指導者が学んだ ②青山学院大学の選手2名を招き、萩市駅伝大会に出場する参加者や市民ランナー、子ども等と交流し、陸上競技への関心を高めた 会場には部活動地域クラブへの移行に関するパネル展示を行い理解・促進を図った				

事業の成果

- トップアスリートを招聘することにより、子どもたちの陸上競技への取組意識を向上させたほか、地域住民の健康への意識を高め、多世代の学びの場にもなった
- 陸上競技への関心を広げ、まちのにぎわい創出にもつながった

活動の写真



◀ 指導者研修



▲ トップアスリートから学ぶ陸上教室



団体名 市民劇団キラリ☆シ (下松市)

代表者名	梅本 真里恵	団体の目的
構成員数	12人	・ 演劇等の創作やイベント等の実施を通して、参加者に表現活動の場を提供し、地域の文化を活性化する
設立	2012年12月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 朗読を通して言葉の魅力や思いを伝え地域活性化、心を豊かに

事業の目的

- ふるさとの昔話や安全についての物語を朗読し、ふるさとへの愛着や安全意識を向上させる
- 様々な手法をもって言葉の魅力や思いを伝え、心を豊かに楽しんでもらう

事業の内容

- 定期練習：月2回～4回（約2時間、8名～12名）
- 地域イベントでの朗読劇上演

開催日	① 4月24日(月) ② 6月18日(日) ③ 11月17日(金) ④ 10月29日(日)	開催場所	① ほしらんどくだまつ ② 秋吉台国際芸術村 ③ 徳山総合支援学校 ④ 厚狭地区複合施設	参加者	約200人
内容	① 教室内パフォーマンス朗読会 ② 芸術村フェスタで楽しく歌う朗読コンサートを実施 ③ 学校において、群読、朗読劇発表 ④ 家族みんなのフェスタで昔話の読み聞かせと群読を披露				

事業の成果

- 定期練習でマイクを使った練習ができたことで、技術の向上が見られた
- 徳山総合支援学校の公演は、毎回、工夫とアイデアを受け入れてもらうための努力が試される公演となるが、生徒のみならず、先生方にも喜んでいただけた
- コロナ禍でも休まず練習を重ね、朗読の基本である発声や発音の学ぶことができたことで、劇団員の個人での活動にも活かすことにもつながった

活動の写真



▲ 徳山総合支援学校での朗読公演



▲ 様々な場所やイベントで朗読や紙芝居を披露



団体名 岩国特別演奏会実行委員会 (岩国市)

代表者名	藤田 早苗	団体の目的
構成員数	65人	・ オークストラに必須のファゴットという伝統楽器に興味を持ってもらい、育成につなげる。山口県東部のオーケストラ、地域の音楽文化の発展に寄与する ・ 小編成しか経験のない学生に地域の音楽家やプロの大人達と一緒に大編成を体験し、音楽を通じてコロナの時期に演奏活動できなかった子どもたちの励みとしてもらう
設立	2022年6月	
問い合わせ先	ksymmyfamry@gmail.com	

事業名 岩国特別演奏会

事業の目的

- 伝統楽器(ファゴット)の魅力を伝え、学生たちに興味を持ってもらい、育成につなげる
- 地域の音楽家と、プロの音楽家、学生の音楽の交流の場を設け、育成、文化の発展、これからの音楽の励みとしてもらう

事業の内容

- 岩国特別演奏会～未来への希望 公演

開催日	5月21日(日)	開催場所	シンフォニア岩国 コンサートホール	参加者	約500人
内容	第1部 吹奏楽 アルメニアンダンス・パートI (岩国総合高等学校吹奏楽部も参加) 第2部 協奏曲 モーツァルト ファゴット協奏曲 変ロ長調k.191 第3部 オーケストラ 交響曲第5番「運命」ハ短調op.67 ※岩国市立東小学校、東中学校生徒招待				

事業の成果

- ファゴットを幅広く周知できたことで、ファゴットを始める学生が増えた
- プロ奏者と地元の音楽家、音大生、岩国総合高等学校吹奏楽部の生徒が切磋琢磨できたことで、地域文化の発展のきっかけとなった
- 岩国総合高等学校の吹奏楽部は、その後切磋琢磨され吹奏楽コンクール中国大会で金賞を受賞した
- 大人と学生と一緒に演奏する機会が増えた

活動の写真



▲ 練習風景



▲ 公演の様子



団体名 長門郷土文化研究会 (長門市)

代表者名	宗金 周治	団体の目的
構成員数	239人	長門市を中心として、広く郷土史、文化財の調査研究を通じて郷土文化の向上を図る
設立	1958年7月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 長門郷土史交流連携強化事業

事業の目的

- 地域郷土文化に関する諸団体との交流連携の強化を図り、情報交換や意見交換の場を設ける
- 講演会やパネルセッションを通して市民への啓発の裾野を広げる

事業の内容

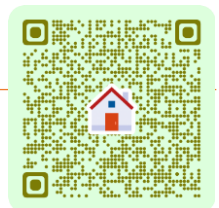
- 郷土史の印刷発行と配布 ～「郷土文化ながと」を4月印刷(400冊)し、5月から配布を開始
- 講演会や探訪

開催日	① 5月13日(土) ② 9月29日(金) ③ 11月26日(日)	開催場所	①③長門市市民活動支援センター ② 長門、津和野一帯	参加者	①60人 ②22人 ③40人
内容	①春の講演会～講演「動き出した大津あきら青春文学祭」、発行した郷土史をテキストにした歴史講座 ②歴史探訪～島根県津和野町の歴史を巡るバスツアー ③秋の講演会～講演「近代捕鯨の発祥と発展」、パネルセッション「どうする鯨文化」				

- 交流連携強化～同様の活動を行う外部団体との情報交換や協働
市民文化祭参加、21の関係団体との連携交流
- 情報の電子化～プロボノを活用し、会誌公開用のサイトを立ち上げた

事業の成果

- 組織の在り方についての議論が進み、方向性を共有することができた
- 関係団体(長門市内旧町の郷土史活動団体)等との交流、連携に一定の前進を見た
- 電子化の著作権問題に正面から取り組みホームページを立ちあげた



長門郷土文化研究会

検索

活動現場レポート

秋の講演会「近代捕鯨の発祥と発展」

日時：11月26日(日) 13:30～／場所：市民活動支援センター(長門市)

- ◆今回訪問した講演会のテーマは「鯨文化」。長門市は「近代捕鯨発祥の地」と言われており、古式捕鯨から近代捕鯨に移った時代の背景や、そこで活躍した郷土の偉人について、宇部フロンティア大学教授(宇部地方史研究会の会長も兼任)内田鉄平氏を招いた講演が行われました。
- ◆講演後は有識者をパネラーに「どうする鯨文化」をテーマとしたパネルセッションが行われました。会場の参加者からも積極的に質問や意見があり、とても興味や意識を持って地元の歴史文化の検証や継承に取り組まれていることが分かりました。
- ◆地元の誇れる文化を今後も広く一般の市民にも啓発していただきたいと思います。

講演会の様子 ▶

※講演内容はホームページで一般公開中



団体名 柳井縞の会 (柳井市)

代表者名	多治比輝明	団体の目的
構成員数	45人	郷土の伝統織物である柳井縞の復活と、その技術の研究及び伝承に努め、地方文化の進展に寄与する
設立	1994年2月	
問い合わせ先	http://yanaijima.web.fc2.com/	

事業名 柳井縞の会設立30年記念事業「一からPROJECT」

事業の目的

- 柳井縞の会設立30年記念事業として、柳井縞ができるまでを綿の種を播くところから体験するイベントを通じて「一人ひとりの力が集まれば大きなことができる」こと、柳井縞と言う素晴らしい伝統文化があることを認識してもらう

事業の内容

- 柳井縞の会設立30年記念事業「一からPROJECT」の実施

①綿を育て、織る

5～6月／地元の小学生やフラワーランド内の「コミュニティ花壇」で綿の苗を育ててもらう

10月／柳井小学校、大畠小学校で綿繰り～系紡ぎを体験

11月／柳井小学校、大畠小学校で機織りを体験

※やない西蔵にて、一般の方にも綿繰り～系紡ぎ体験を提供

②端切れてアート

機織りでできる端切れを有効活用し、アート作品を制作（参加者が1枚ずつ端切れを貼り付けて一つの作品に仕上げる）寒色バージョン、暖色バージョンを作成

一般向けに「端切れてミニアート」作品を募集し、公開展示で投票を募り優良作品は表彰

③プロジェクトについての啓発展示・端切れアート作品の展示

開催日	11月22日～27日	開催場所	やない西蔵
内容	- これまでの活動報告や写真、参加者で作り上げたアート作品を展示 - 期間中、11月23日（木・祝）はファイナル・セレモニーと位置づけ表彰式を実施 - 栽培して収穫した綿での系紡ぎ体験を提供		

事業の成果

- 多くの方（1,000人以上）に、綿や柳井縞に直接手で触っていただき、柳井縞への関心を持ってもらえ、会の30年の節目として記念の事業を実施することができた
- 参加者に直に柳井縞とは何かを説明できすばらしい伝統文化として理解してもらうことができた
- 「端切れてアート」では、小さな端切れが立派なアートになることで感動を与えることができた

活動の写真



◀ 地元の小学校で機織り体験



▲ 「柳井縞」の啓発

